

第十八章 聖霊なる神・聖霊のバプテスマ

I 聖霊のバプテスマの意味

聖霊に関する教理の中で、聖霊のバプテスマほど多くの混乱を生み出したものは他にないであろう。問題の多くは聖霊のバプテスマが、新生、内住、証印などの重要な働きと同時に始まったということから発している。また、他には聖霊のバプテスマが聖霊の満たしと同時に起こった。それゆえ、一部の注解者は両者を同じものとみなすに至った。しかし、これら解釈上の争点は、聖霊のバプテスマに関する聖書箇所を注意深く調べれば解決する。

聖霊のバプテスマに関する聖書箇所は新約聖書中に 11 カ所ある。(マタイ 3:11、マルコ 1:8、ルカ 3:16、ヨハネ 1:33、使徒 1:5、11:16、ローマ 6:1-4、I コリ 12:13、ガラ 3:27、エペソ 4:5、コロ 2:12)

II ペンテコステ以前の聖霊のバプテスマ

四福音書と使徒の働き 1 章 5 節をみると、聖霊のバプテスマはこれまで起こったことがなく、未来に起こるべき出来事として記されている。福音書を見ると、聖霊のバプテスマとは、聖霊を媒介として、キリストが行われるみわざとして表されている。使徒の働きを見ると、キリストご自身が聖霊のバプテスマをヨハネのバプテスマと対比して、ご自身の昇天の後に起こる出来事として語られた。

III 今の時代ではすべてのクリスチャンが聖霊のバプテスマを受けている。

すべての人がキリストを信じて救われた瞬間に聖霊のバプテスマを受け、キリストのからだに加えられるということはいつでも認められてきたというわけではない。しかし、この事実は I コリ 12:13 によく表明されている。「~によって」と訳されている [エン] は手段としての用法で、ルカ 4:1、I コリ 6:2、コロ 1:16、ユダ 1 にも同じ用法で用いられている。これは聖霊のバプテスマが、私たちが聖霊の中に入れるという表現ではなく、聖霊によって私たちがキリストのからだの中に入れられるということである。

「私たちはみな」という表現は明らかにすべての人ではなく、すべてのクリスチャンを示すものであり、また、クリスチャンの中の特定の集団に限られるべきではない。ゆえにすべてのクリスチャンは信じた瞬間に聖霊のバプテスマを受けているのである。その事実は、他の聖書箇所が御霊に満たされなさいと勧めているが、聖霊のバプテスマを受けなさいと勧めていないことから明らかである。

IV 聖霊のバプテスマによってキリストのからだに入れられる。

聖霊のバプテスマによって、二つの主要な結果が達成される。その一つが、キリストのからだである教会のうちに入れられることである。このことはキリストのからだである教会に関して、聖書の中に啓示された偉大な真理のすべてに信者たちを結びつけるものである。また、このことは信者がキリストのからだの中で特別な賜物、あるいは機能を与えられているということである。(ローマ 12:3-8、I コリ 12:27、28、エペ 4:7-16) 聖霊によってキリストのからだの中に入れられるということは、単に人種、文化、背景にかかわりのないこのからだの一致を確証するばかりでなく、信者各自には彼の人格、賜物

の枠内で、彼に独自の立場と機能と神に仕える機会があることを保証する。

V 聖霊のバプテスマによってキリストに結び合わされる

聖霊のバプテスマによる結果の二つ目は、教会のかしらであるキリストに結び合わされるということである。(ヨハネ 14:20) このことは、キリストの死、復活、栄化に結び合わされる。(ローマ 6:1-4) そして、からだである信者は、かしらであるキリストと共有するいのちを持つ。そしてそのことは、キリストがご自分のからだを主権的に支配されることにつながる。

VI 聖霊のバプテスマと霊的経験との関係

すべてのクリスチャンが救いの瞬間に聖霊のバプテスマを受けるという事実を考えると、バプテスマは私たちが信仰によって理解し、受け入れるべき神のみわざであることは明白である。それに続く霊的経験は、聖霊のバプテスマがあったことを証明してくれるかも知れないが、聖霊のバプテスマ自体は経験ではなく、普遍的で、私たちの身分に関するもので、瞬時になされる神の行為である。それは新しく生まれた後に求められるべきみわざではない。

また、クリスチャンは異言を伴う聖霊のバプテスマを求めるべきであるという主張によって多くの混乱が引き起こされてきた。使徒の働きの中の三つの事例(2、10、19章)は、この書の過渡的性格によるもので、すべての聖霊のバプテスマに異言が伴ったという証拠にはならない。それに、初代教会のすべての信者は聖霊のバプテスマを受けていたにもかかわらず、すべての信者が異言を語ったのではないことも明白である。それゆえ、クリスチャンの生涯において、神の普通以上の働きに与かる手段として、聖霊のバプテスマを求めるという考え方自体が聖書的根拠を欠いているといえる。

使徒2章のバプテスマとIコリ12章のバプテスマは違っているという主張に対しても、使徒11:15-17におけるペテロのことばによって回答が与えられる。

聖霊のバプテスマは私たちがキリストとの、また仲間の信者たちとの新しい結び付きに、キリストにある新しい立場に、キリストのからだの親密な交わりに入れてくれる聖霊の働きとして、極めて重要なものである。それは義認、聖化、栄化といった、神のすべての働きの基盤なのである。

[付録]

信仰と同時におこる聖霊の働き

Renewal 新生
Indwelling 内住
Baptism バプテスマ
Sealing 証印
(Filling 満たし)

} 信じたときに一度きり起こる

信仰生活の中で繰り返し起こる。